

ヒラメ曳縄漁法の導入試験

(県単，現地適応化試験)

始良・伊佐地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

鹿児島湾奥漁場においては、延縄、底曳網、刺網、一本釣等の漁業が行われているが、いずれも小規模であり、近年は漁獲量の減少と魚価の低迷により厳しい漁業経営状況となっている。

錦江漁協青壮年部では、平成21年12月に熊本県天草市の天草漁協苓北支所において視察研修を行い、“ヒラメ曳縄漁法”について学んだ。錦江漁協におけるヒラメの漁獲は、主に刺網によるが、小型ヒラメの割合が高く単価が安いことから、資源管理と漁業収益向上を目的として、“ヒラメ曳縄漁法”の導入を試みた。

【普及の内容・特徴】

天草漁協苓北支所において学んだ漁具を揃え、試験操業を行った。

試験操業を実施した青壮年部長は、漁具作成後、一人で2回の事前試験操業を行い、船速と漁具のバランス、潜航板による海底の探り方等、この漁法について事前にある程度習得し、試験操業に臨んだ。事前試験操業における釣果は、エソ1尾。

平成23年3月3日、午前9時から11時の間、青壮年部長の漁船（4.2t）を用い、霧島市隼人沖において試験操業を行った。水深と魚探の反応を見ながら船速を調整し潜行板が海底付近を走るよう調整した。

（漁具仕様）

- ・ビシヨマ：1 匁ビシ付きテグス（28～30号） 50～100m
- ・潜行板：K型舵付き8号
- ・幹縄：18～20号テグス
- ・枝縄：8～10号テグス 1 ヒロ
- ・疑似餌：曳縄用タコホロ（シーベイト）3.5号 10本
- ・針：かん付曳縄14号

【成果・活用】

試験操業による釣果は、ヒラメ（全長68cm，体重4.0kg）1尾であった。

この時期、刺網でのヒラメの漁獲が低調な中、試験操業で目的のヒラメを釣ることができた成果は大きく、この曳縄漁法の現地での適応性が高いことが確認された。

しかし、漁具の操作性や作業効率等を考慮し、船速と漁具の調整や潜行板と疑似餌の間隔の調整、疑似餌の違いによる食いの比較等、熟練と改良が必要である。

一本釣の餌の確保とその経費を考えると曳縄漁法の活用は広がる可能性を秘めており、大きなサイズのヒラメを活魚出荷することで、資源管理と漁業収益の向上が図られる。

【その他】

鹿児島湾奥漁場においては、マダイ・ヒラメの放流を行っているが、マダイは遊漁者による漁獲が多く、ヒラメは大半を漁業者が漁獲していると考えられ、ヒラメの漁獲に対する漁業者の関心は非常に高い。

そのような中、試験操業の結果を聞いた別な漁業者が独自に操業を行うなど、この漁法が地域に定着する可能性が高まっている。この地区における新たな漁法として導入され、青壮年部等で情報交換を行えば、より効率の良い漁法に改良されると思われる。

さらに、今後の課題として、活魚出荷による単価アップはもちろんのこと、活締めによる単価アップの取り組み等を行うことにより当初の目的が達成されるものとする。

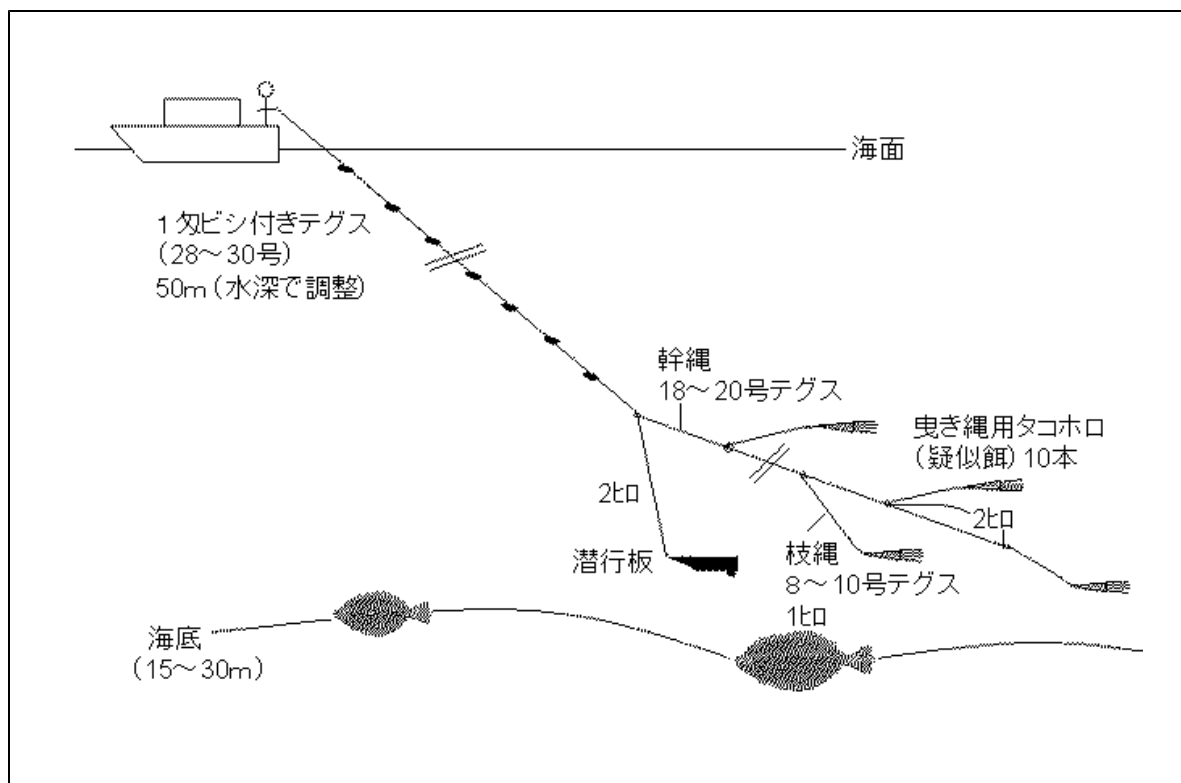


図1 ヒラメ曳縄「漁具図」

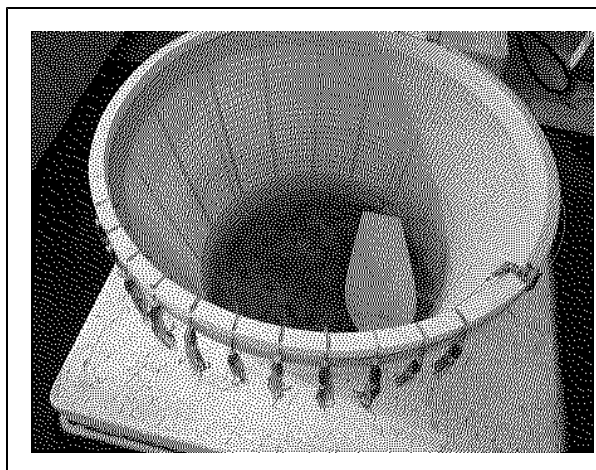


写真1：漁具



写真2：操業状況

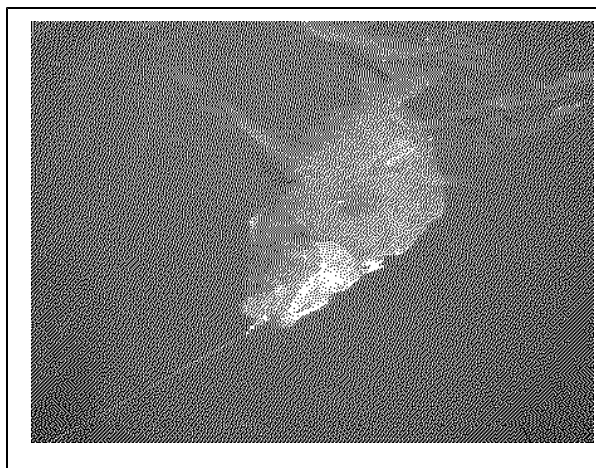


写真3：ヒラメ



写真4：ヒラメ